

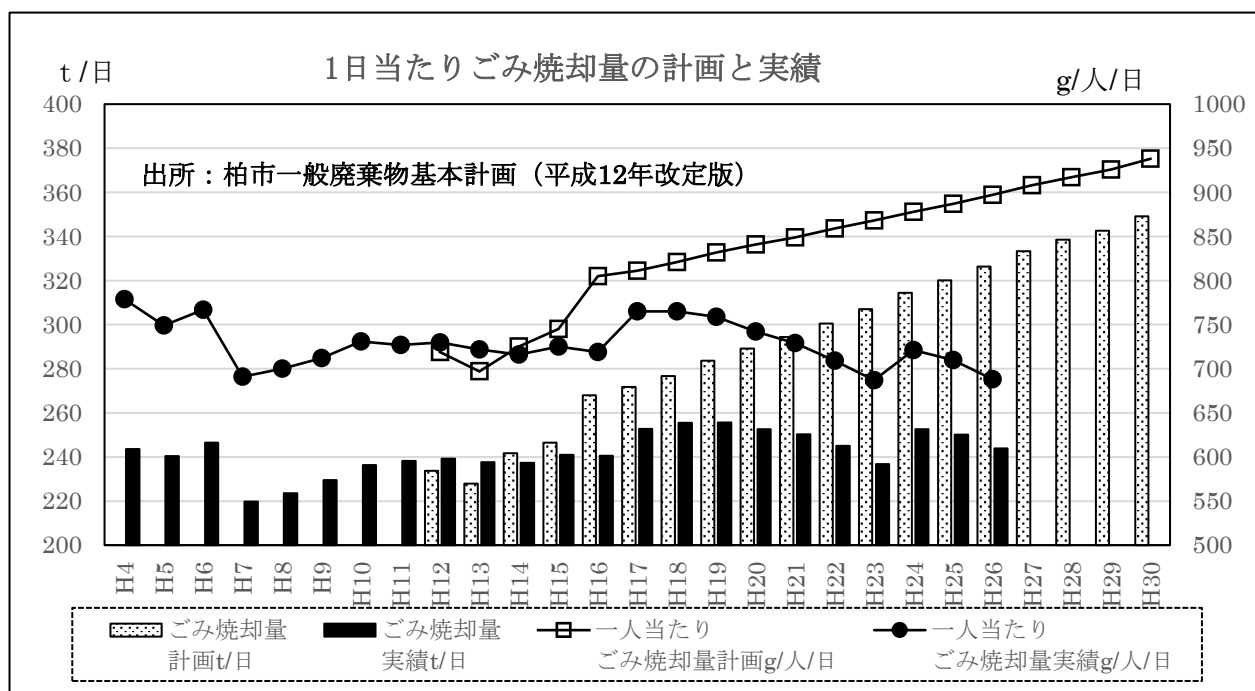
柏市ごみ処理基本計画を検証する—計画と実績大きな乖離—！

平成 17 年度に第二清掃工場（南部クリーンセンター）が稼働開始し、今年で 10 年を経過します。どの程度のごみの焼却に役割を果たしたかを検証します。

北部クリーンセンター（能力：100t/日×3 炉）は柏市船戸に位置し、平成 3 年度から稼働しています。一人当たりのごみ量と人口の増加に伴い、新しい清掃工場が必要とされました。

柏市の一般廃棄物処理基本計画（旧柏地域）は、平成 9 年 3 月に策定したもので、南部クリーンセンターの施設規模は、300t/日とされました。その後、平成 12 年 7 月に改定され、南部クリーンセンターの施設規模は、250t/日に変更されました。環境 21 世紀の会は、当時から 1 人 1 日当たりのごみ量の基本計画が、右肩上がりで大都市の東京都、横浜市、名古屋市、仙台市と比較して高い数値に設定されていることを指摘していました。又、柏市より 10 万人以上人口の多い松戸市と比較しても、柏市は南北のクリーンセンターの合計設備規模は、松戸市の 500t/日を超えるものであり設備が過大であることも問題にしていました。

下のグラフには、平成 30 年度までの計画値として 1 日当たりごみ焼却量（t/日）と 1 人 1 日当たりごみ焼却量（g/人/日）が表示されています。又、平成 25 年度までは実績です。



計画では、1 人 1 日当たりごみ焼却量は、平成 12 年度の 700g/人/日から平成 30 年度は約 950 g/人/日です。人口は 325,000 人から 372,000 人の 14.4%の増加を見込んでいます。従って、ごみ焼却量は、約 350t/日となり、平成 12 年度と比較すると、100t/日の増加となります。この計画に基づき南部クリーンセンター（柏市南増尾、能力：125t/日×2 炉）が新設され、平成 17 年度から稼働しています。

実績は、「柏市清掃事業概要（平成 12 年度～25 年度）」からのデータです。1 人 1 日当たりごみ焼却量（g/人/日）は平成 12 年度から 25 年度までで大凡 700～770g/人/日で推移しています。旧柏地域の平成 12 年度の人口は、327,517 人で平成 25 年度は 352,296 人で 7.6%の増加です。従って、1 日当たりのごみ焼却量も 240～260t/日で推移しています。計画と実績の間には大きな乖離があります。平成 30 年度までに、人口は少し増えると思われませんが、ごみ焼却量も 260 t/日と推定されます。

旧沼南地域のごみ処理状況

旧沼南地域のごみは、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合で処理されています。名称はクリーンセンターしらさぎで、場所は柏市藤ヶ谷にあります。平成 25 年度の人口は、52,065 人です。可燃ごみは、燃やすごみとその他を含めて合計で 11,865t/年です。1 日当たりになると 32.5t/日です。1 人当たり直すと 624g/人/日になります。旧沼南地域の可燃ごみを合わせても、南北クリーンセンターで十分に処理できます。

北部クリーンセンターの更新規模は—縮小可能—

平成 32 年度には、北部クリーンセンターは、稼働後 30 年を迎えます。設備も老朽化し更新の時期です。現設備の処理能力は 100t/日×3 炉であり、このままの能力を踏襲して更新すると設備が過大になります。当然縮小する必要があります。平成 24 年 3 月の「柏市一般廃棄物処理基本計画」を部分修正ではなく、抜本的に見直しが必要です。外部の監査でも同様なことが述べられています。

「平成 25 年度柏市包括外部監査報告書」から一部抜粋すると、「南北クリーンセンターを合わせた処理能力には相当程度の余裕がある状況である。旧沼南地域のごみ処理を含めてもまだ若干の余裕があるよううかがえる。北部クリーンセンターの設備更新に当たっては、広域処理を行う柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合との兼ね合いを考慮した適切な設備規模のあり方を検討してみる意義があると考え。」という監査意見が述べられています。

以上